文部科学省科学技術人材育成費補助金　女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）

July 2012
No.6

大分大学 女性研究者サポート室“FAB”

News Letter

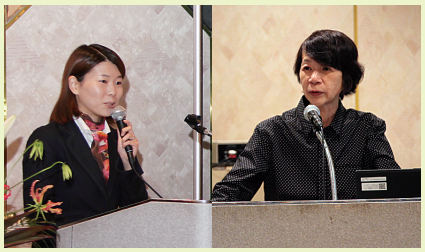
Female Academics at Bundai FAB

Contents

活動報告 1
特集 女性研究者を増やすには ～平成23年度卒業予定者の意識調査～ 2
活動報告 3
大分大学の輝く女性研究者紹介 4

国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室“ FAB ”　E-mail fsupport@oita-u.ac.jp　URL http://www.fab.oita-u.ac.jp/

大分大学男女共同参画公開セミナーを開催しました



5月18日（木）、「大分大学男女共同参画推進本部棟」の開所を記念して、大分大学男女共同参画公開セミナー「先進的男女共同参画を学ぶ」を開催しました。

北野正剛大分大学長による開会挨拶、松浦恵子女性研究者サポート室長による本学の女性研究者支援事業の説明の後、本学の女性研究者2名が発表を行いました。

平成23年度春季学会派遣支援に採択された川田菜穂子講師（教育福祉科学部）は、「若者の自立・家族形成と住まい」の演題で、岸田哲子教授（医学部）は、「9時5時のすすめ、若い研究者へ」の演題で発表を行いました。

特別講演は、株式会社資生堂の取締役である岩田喜美枝氏を講師としてお招きし、「女性はもっと活躍できる」の演題でご講演いただきました。岩田氏は人生の三本柱とする「キャリアをつくる」、「家族をつくる」および「社会と関わる」について、ご自身の人生を振り返りながら話されました。また、資生堂における女性活躍支援の制度づくりやワークライフバランスのための業務改革など企業の先進的な男女共同参画の取組みについてお話しいただきました。

最後に嘉目克彦理事が閉会の挨拶を行い、セミナーを終了しました。

科研費獲得セミナーを開催しました

6月1日（金）、旦野原および挾間の両キャンパスにおいて久留米大学分子生命科学研究所の児島将康教授を講師に招き、科研費獲得セミナー「書き方次第でこんなに違う！」を開催しました。

児島氏は、ご自分の科研費獲得履歴を含めた自己紹介の後、科研費獲得の厳しい現状を大分大学を例に挙げながら説明されました。

採択される重要なポイントとして、「1．分かりやすく、読みやすい申請書」、「2．業績（論文発表）」の2つを挙げ、申請書作成の具体的な方法（研究目的をはっきり書く、これまでの自分の研究成果を十分にアピールする等）について、実際の申請書をもとに説明されました。

セミナー終了後は、参加者からの質問に丁寧に答えていただきました。

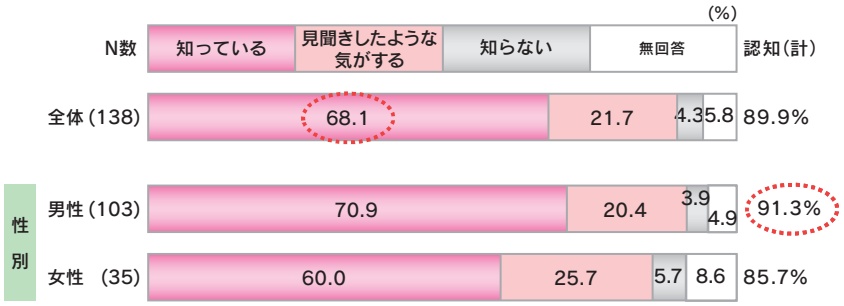
参加者からは、「毎年の動向も踏まえて、このようなセミナーを定期的に開催して欲しい」、「科研費申請書の書き方を学ぶ機会がないので、非常に勉強になった」等の意見が聴かれ、大変有意義なセミナーになりました。

※旦野原キャンパスでのセミナーを収録し、DVDを作成しました。
希望者には貸出しますので、サポート室までお問い合わせください。

特集 女性研究者を増やすには
～平成23年度卒業予定者の意識調査～

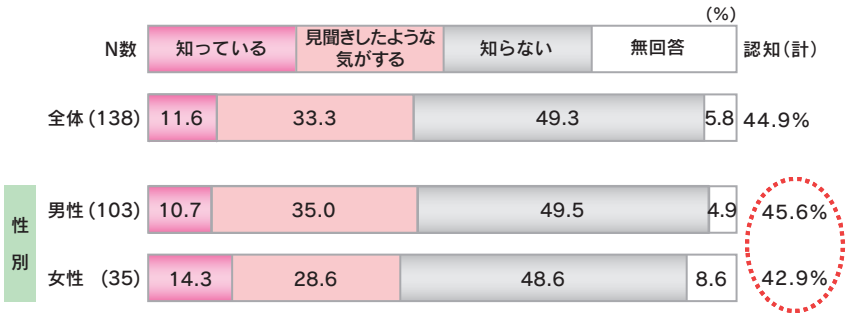
大分大学で女性研究者支援事業の施策に関する参考資料を得るために、平成23年度末に本学の卒業予定の学生（138名（男性103名、女性35名））の男女共同参画に対する意識や研究者に対する認識などについて調査を行いました。ここに一部を紹介します。本調査の詳細はサポート室HPの発行物に掲載しておりますのでご覧ください。

Q1：あなたは、「男女共同参画」という言葉をご存知でしたか。



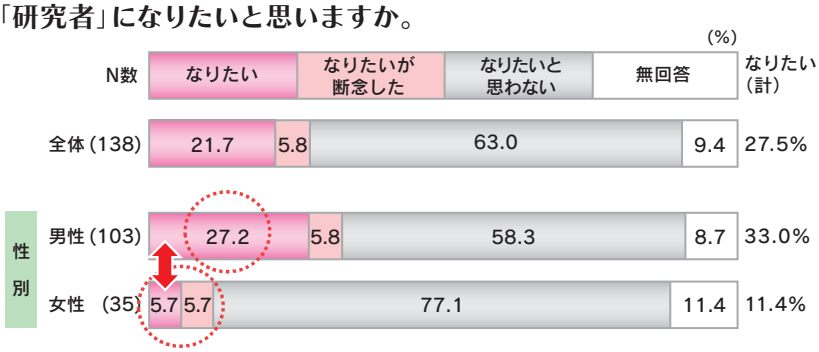
●「男女共同参画」という言葉の認知率は9割に達している。

Q2：大分大学においても平成22年7月に男女共同参画推進本部が設置され、教育・研究や大学運営等、様々な面での男女共同参画推進への取り組みが行われていますが、あなたはこのことをご存知でしたか。



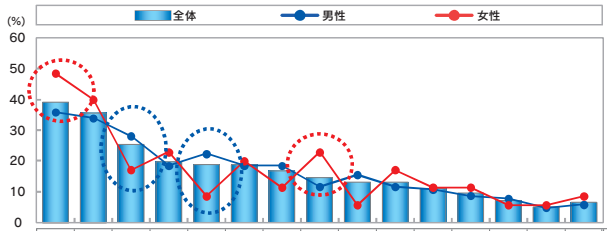
●「大分大学での男女共同参画推進への取り組み」認知率は45%と、半数以下に留まる。

Q3：「研究者」になりたいと思いますか。



●「研究者になりたい」人は男性27%に対し、女性は6%と、圧倒的に男性の方が多い。

Q4：女性研究者が少ない理由は何だと思いますか。主なものを3つまで選んでください。

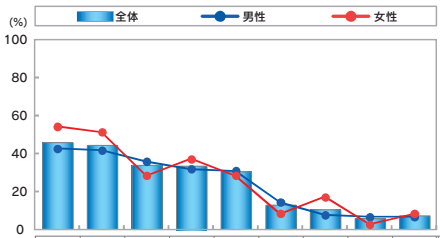


N数が30以上で
:全体より5Pt以上高い値
:全体より5Pt以上低い値

		N数	家庭と仕事の両立が困難	女性の意識	職場環境	目標となる女性研究者（ロールモデル）が少ない	男女の社会的分業意識	男女の適性の違い	育児期間後の復帰が困難	家庭環境	社会の偏見	女性研究者に対する	将来像が不透明	男性の意識	教育環境	労働時間が長い	その他	無回答	社会の意識・偏見（計）	将来像・目標像なし（計）	家庭・育児との両立困難（計）
全体		(138)	39.1	35.5	25.4	19.6	18.8	18.8	16.7	14.5	13.0	13.0	10.9	9.4	7.2	5.1	6.5	25.4	29.7	43.5
性別	男性	(103)	35.9	34.0	28.2	18.4	22.3	18.4	18.4	11.7	15.5	11.7	10.7	8.7	7.8	4.9	5.8	31.1	27.2	41.7
	女性	(35)	48.6	40.0	17.1	22.9	8.6	20.0	11.4	22.9	5.7	17.1	11.4	11.4	5.7	5.7	8.6	8.6	37.1	48.6

●「家庭と仕事の両立が困難」が最大の理由。女性は特に「家庭と仕事の両立」や「将来像・目標像の不明確さ」を要因と考える傾向が強く、「社会の意識・偏見」はむしろ男性の方が強く意識している。

Q5：女性研究者を増やすためには何が必要だと思いますか。主なものを3つまで選んでください。



N数が30以上で
:全体より5Pt以上高い値
:全体より5Pt以上低い値

		N数	育児・保育環境の整備・サポート体制の充実	研究者を目指す女性に必要な情報の提供	女子学生に対する啓発活動（ロールモデルの呈示など）	女性研究者の積極的登用・昇進（ポジティブアクション）	女子学生と女性研究者の交流促進	学内外での「男女共同参画」に対する啓蒙・理解促進	介護問題に関するサポート・休業時のサポート体制の充実	その他	無回答	啓蒙・啓発活動（計）	サポート体制整備（計）
全体		(138)	45.7	44.2	34.1	33.3	30.4	13.0	10.1	5.8	7.2	79.7	47.1
性別	男性	(103)	42.7	41.7	35.9	32.0	31.1	14.6	7.8	6.8	6.8	81.6	43.7
	女性	(35)	54.3	51.4	28.6	37.1	28.6	8.6	17.1	2.9	8.6	74.3	57.1

(%)

●「育児・保育環境の整備・サポート体制の充実」と「必要な情報の提供」が最も必要と捉えられている。

（株）電通マーケティングインサイトによる企画・集計・解析

研究活動支援　詳しくはサポート室HPをご覧ください

研究サポーター事業利用申請受付します（平成24年度後期）

[申請期間]7月17日（火）～8月16日（木）　**[利用期間]**10月1日～3月31日　**[募集人数]**若干名

詳しくはサポート室HPをご覧ください

女性研究者に係るメンター制度の実施について

本学の女性研究者が、研究と生活との調和を図りつつ、研究力を磨きキャリアを築き続けるために、より経験を積んだ先輩研究者に気軽に相談できる体制を提供することを通して、女性研究者の科研費等の採択率を向上させるとともに、本学全体の研究力及び競争力の向上を図ることを目的として、メンター制度を実施します。詳しくはサポート室HPをご覧ください。

情報交換　FAB交流会を開催しました

●旦野原キャンパス

第5回ＦＡＢ交流会

4月5日（木）、工学部の堤紀子助教、大学院生および学部生が参加して、情報交換を行い、理系女子の率直な気持ちや考えを聞くことができました。

第8回、第9回＆第10回ＦＡＢ交流会

5月14日（月）、15日（火）および17日（木）に、旦野原の異なる学部・センター等の女性研究者が参加して開催し、所属による女性研究者の状況の違いを知ることができました。

●挾間キャンパス

第6回、第7回ＦＡＢ交流会

4月19日（木）および20日（金）に、医学部の女性教員、技術補佐員および研修医等の方が参加して、交流会を開催し、いろいろな立場の方を知ることができました。

意識啓発　新入生対象の男女共同参画講義を行いました

各学部の平成24年度入学の新入生を対象として、山岸治男前教育福祉科学部教授が男女共同参画講義を下記の演題で行いました。

医　　学　　部：「医学生のキャリア形成と男女共同参画」【4月6日（金）】
教育福祉科学部：「男女共同参画社会を実現するには」【6月7日（木）】
経　済　学　部：「学生のキャリア形成と男女共同参画」【6月25日（月）】
　　「二十歳からのキャリア形成と男女共同参画」【6月28日（月）】

大分大学の輝く女性研究者（5）

Female Academics at Bundai

大分大学で研究に取り組んでいる女性は現在263名（教員91名、大学院生172名）（平成24年5月1日現在）です。でも実際の研究者がどのような研究生活を送っているか意外と知られていません。このコーナーでは大分大学で活躍する女性研究者を紹介していきます。第5回目は、医学部看護学科の河村奈美子 准教授と医学部附属病院の川野由紀枝 助教を紹介します。

医学部看護学科
精神看護学

准教授　河村奈美子さん

[略歴]
北海道医療大学卒業。札幌医科大学大学院修了。看護師として勤務。旭川医科大学・札幌市立大学にて精神看護学の助手・助教となる。奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。平成24年に大分大学に着任。

研究の内容は？

教育では、精神看護学領域を担当しています。精神看護学の講義や実習、研究を担当しています。学生とともに講義や実習を通して、発達段階とこころの健康について理解を深め、看護ケアを考えていきます。研究は、コミュニケーション上の障害を持つ認知症高齢者や子どもに対して、動物（犬や馬）がいることによって人と人のコミュニケーションがどう発展するのか（アニマル・セラピー）について研究しています。

進路決定のきっかけは？

修士課程修了後、大学病院で看護師として勤務していました。その時、卒業した大学の先生からお声をかけていただいたのがきっかけです。精神看護についてもっと深く学ぶ機会にしたいと思いました。

研究の魅力は？

自分が興味・関心をもっているテーマについて、疑問をもって一生懸命考え、その疑問が少しずつ明らかになっていく過程がとても面白いと思います。更に、その過程や結果を論文として発表したものが、他の研究者の参考文献にしてもらえたことを発見すると、自分の研究成果が世の中に還元できた気持ちを味わえ、とても嬉しいです。

後輩へのアドバイスは？

仕事の継続と結婚・出産・育児の両立は難しいという考えが、私自身にもありました。しかし、海外に子どもを連れて単身赴任して研究を継続する、障害をもった子どもを連れて留学を考えているゼミの仲間を目の当たりにして、生活と両立しながらできることはたくさんあるということに気づくことができました。私自身、学会でママ友もできました。そんな時代に変わりつつあるのです。ぜひ、色んなことをあきらめずに頑張ってください。

ワークライフバランスについて

この仕事を続けられているのは、2人の子どもと夫、両親の協力がとても大きく、家族の力に感謝しています。自分が子どもの時間に合わせるのか、子どもに自分の時間に合わせてもらうのかということを考えた時期もありましたが、「家族メンバーの心と身体の健康は大事にしたいと思い、それ以外は何とか頑張る、できないことは助けてもらうことにしました。今は職場の理解と地域のサポートに支えてもらっています。将来は支援する立場になりたいと思っています。

医学部附属病院
産科婦人科

助教　川野由紀枝さん

[略歴]
大分県生まれ。長崎大学医学部卒業。大分医科大学（現大分大学医学部）産婦人科学教室に入局。大学、および関連病院の勤務を経て、大分大学医学部大学院博士課程を卒業。現任に至る。

研究の内容は？

子宮内膜症は近年増加傾向にあり、月経困難症や不妊症の原因となります。発症原因は分かっておらず、多くの女性が苦しんでいます。私は子宮内膜症の病因検索と、これまでとは違った機序の新しい薬剤の開発にむけ取り組んでいます。

進路決定のきっかけは？

産婦人科に入局した頃、多くの先輩方が研究をされていました。それを見ていた私は、ある時期になったら研究に携わるのがごく普通のことのように感じていました。しかし、その時期はなかなかめぐってきませんでした。もう研究をすることはないのかも知れないと思った時期もありましたが、結婚して出産を終え、研究するなら今しかない！と思いきって研究の生活に飛び込みました。

研究の魅力は？

取り組んでいるテーマについて深く考え、様々な角度から可能性を探っていきます。その中からヒントを自分でみつけ、自分の仮説に基づいて行った実験がうまくいったときはとてもうれしいです。また、実験がうまくいくこともちろんですが、もしかしたらこうなのかも？と考えている過程がとても楽しいものです。

後輩へのアドバイスは？

何かをしたいと思った時、自分ひとりで何もかもすることはできません。やりたいことが見つかったら、周囲の人に頼ってください。感謝の気持ちを常にもっていてください。そして、ゆっくりでもいいので自分の目指した道を進んでいくことができればハッピーですよね。

ワークライフバランスについて

仕事と家庭を行ったり来たりで時間の余裕は全くありませんが、それでも人生を楽しみたいと思っています。研究がうまくいくとうれしいし、家族と一緒にいると楽しい。楽しいうちは忙しくても続けていけると思います。毎日がつらくなるような状況に追い込まないこと、「まっいいか」と切り替えることが重要だと思います。

■編集後記

旦野原キャンパスのサポート室は昨年度末に新築された男女共同参画本部棟へ引っ越しました。広い室内で、ミーティングや研究者同士の交流会も出来るようになりました。休憩室も併設しています。是非お立寄りください。

国立大学法人
大分大学
OITA UNIVERSITY

編集・発行元 / 発行日 2012年7月
国立大学法人 大分大学 女性研究者サポート室 “ FAB ” Female Academics at Bundai
〒870-1192 大分県大分市大字旦野原700番地 TEL（097）554-8573 FAX（097）554-6039
E-mail：fsupport@oita-u.ac.jp　http://www.fab.oita-u.ac.jp/